関釜裁判ニュース

2005年10月9日

第49号

釜山「従軍慰安婦」
女子勤労挺身隊
公式謝罪等請求事件

戦後責任を問う
関釜裁判を支援する会

関釜裁判は一九九二年十二月韓国釜山市などの日本軍「慰安婦」被害者と女子勤労挺身隊の十人を原告とし、山口地裁下関支部に日本国の公式謝罪と賠償を求めて提訴した。九八年「慰安婦」原告に一部勝訴判決が出たが、広島高裁で敗訴。二〇〇三年最高裁で棄却決定。現在、戦後補償立法運動と富山での勤労挺身隊訴訟を支援。

強い志で、戦後責任への取り組みを！

花房俊雄

自民党分裂の衆議院選挙を前にして、野党の躍進で、あわよくば政権交代で戦後補償や在日の障害者・高齢者の無年金問題解決の課題が前進するのを期待しましたが、自民党の圧勝に終わり、戦後六〇年の夏の終わりは無残な結果になりました。

戦後補償の立法解決や遺骨の調査・返還に積極的に取組んでこられた石毛えいこさん、藤田一枝さん、楢崎欣弥さん、小林千代美さんらの議員が落選したことは本当に残念でなりません。

自民党政権による、経済のグローバル化（企業体の内外における弱肉強食の激化をもたらす新自由主義政策）と国家の軍事化が一層推進されていく政治状況になりました。立法解決の道は険しく、被害者や被害国との和解への道はより厳しくなりました。

しかし、わたしたちは決してあきらめることなく、平和と人権を共有する北東アジアの建設に向けて歩みを始めた隣国・韓国の民主化運動の勢力と連帯し、戦後責任への取り組みに力を注いでいきたいと思います。国内政治の現状に身をおくとき、深い閉塞感にとらわれがちですが、日本を取巻く国際政治の流れを見据えるとき、私達の歩みこそが日本社会の未来を切り開くものであることを確信しています。

◆本人尋問に入る不二越訴訟

企業と国を相手取った第二次不二越訴訟は十一月二日の第八回口頭弁論より本人尋問に入ります。八人の原告が二人づつ出廷し計四回の口頭弁論が開かれます。第一回は李B（イ・B　）さんと羅T（ナ・T　）さん、十二月二一日の第九回口頭弁論では崔H（チェ・H　）さんと安K（アン・K）さんが証言することになっています。金J（キム・J　）さんと羅H（ナ・H　）さんの本人尋問は来年になる予定です。

弁護団は原告たち一人一人の被害の実証を大変重視しています。一回の本人尋問に向けて、弁護士が訪韓しての聞き取り調査、原告に来日してもらっての中間打ち合わせ、そし

て裁判での本人尋問と計三回日本と韓国を往来します。四回の裁判で合計十二回往来します。北陸の支援者たちは弁護士と同行して韓国に行ったとき、または原告が来日したとき、通訳の依頼、打ち合わせ会場や宿の手配、原告への付き添い等に精力的に取組んでいます。

私達、関釜裁判を支援する会も、費用の分担、裁判への傍聴、訪韓して聞き取り調査への協力等に取組んで行きたいと思います。皆様方の変わらぬご支援をお願いいたします。

◆ 強制動員真相究明ネットワークが設立

真相究明ネットワーク結成集会で発言する福留範昭さん（7月18日東京で）

韓国で取組まれている強制動員真相究明と遺骨の調査・返還に日本で協力するため、七月一八日東京で、学者や研究者、戦後補償運動に取組んできた市民メンバーら一五〇名が参加して「強制動員真相究明ネットワーク」が設立されました。その下部組織として九月二四日、「強制動員真相究明福岡県ネットワーク」を設立しました。三〇年来強制連行被害者の調査に当たってきた金光烈さん、武松輝男さん、一九八六年から六次に渡り同胞の遺骨を韓国の望郷の丘に返還・慰霊してきた在日本大韓民国民団福岡県本部の人たちと日韓の友好を願う市民たちが参加しています。

九月二八日、企業と地方自治体における朝鮮人遺骨の調査結果が外務省より発表され、五社の企業と一団体から一四七人分、全国の自治体から七二一人分の遺骨情報が寄せられたとのことです。早速、福岡県ネットワークは福岡市と福岡県を訪ね調査結果を担当者からお聴きしました。

福岡市では情報はゼロ、福岡県では、飯塚市の無窮花堂の約八〇体と小竹町の松岩菩提にある七体の遺骨情報が寄せられたとのことでした。これまで民間で調査してきた以上の新情報はありませんでした。地方自治体に存在している可能性のある、遺族が一番知りたい「いつ、どこで、なぜ亡くなったのか」という死亡情報が載っている埋葬・火葬認可書の情報提供は皆無でした。調査された形跡もありませんでした。その重要性を説明し、再調査を申し入れてきました。

一方、遺骨と死亡情報（過去帳）が最も多い寺院での調査はいまだ始まっていません。六月末に政府より出された宗教界への依頼では、各宗派の機関紙やホームページで遺骨情報の提供を呼びかけ、遺骨があるお寺は直接に厚生省にファックスで情報を寄せるように呼びかけています。仏教会では、植民地支配と侵略戦争に加担した過去の罪責を問い、平和を重視してきた過程から今回の遺骨の情報提供、返還への取り組みを重視し、政府の安易な依頼に対しては戸惑いと怒りがあり、慎重な検討がなされています。

福岡県ネットワークは県下の各宗派の教務所を訪れ、徹底的な遺骨と死亡情報の提供ができるよう悉皆調査を申し入れています。

戦中・戦後、朝鮮人の遺骨を預かったお寺の住職さんは子供や孫に代替わりし、遺骨の預かり情報が継承されているかも不安です。また過去帳の調査をしっかりしていただくためにも、福岡県ネットワークでお寺巡りをしていきます。

一方、韓国で強制動員被害者の申告が二〇万三千余名に達しましたが、その七割は被害証明ができない状態です。韓国政府は強制動員被害者の証明資料として、厚生年金名簿や供託金名簿の提出を日本政府に促していますが、反応は鈍いようです。申告の被害が証明できないと韓国政府による被害者への補償措置に漏れるため、申告者の間に不安が広がっています。

政府に資料の提出を促すと共に、韓国の市民団体と協力して被害申告の証明（申告者からの依頼を受けて社会保険事務所に厚生年金名簿の情報公開をもとめる）などに取組んでいきます。

「日韓協定により、法的責任は解決済み」として、被害者たちの戦後補償を拒絶してきた日本国も、遺骨の調査・返還までも無視することはできませんでした。しかし戦後六〇年が経過し、遺骨の返還や生死の確認をもっとも望んでいた親や兄弟、妻達の多くがすでに亡なり、あまりにも遅い取り組みになってしまいました。戦時下の強制動員の政策を推し進めた国が、「責任は企業にある」として遺骨の返還すら無責任にも放置してきたことへの怒りと共に、それを許してきた私達市民の責任もまた痛感します。「最低限の戦後責任すら放置してきた」これが今の私の実感です。

福岡県は筑豊の炭鉱地帯を抱え、戦時下の強制動員がもっとも多く、一七万一千人と県の書類に記されています。そして二千人近い人が亡くなったと推測されています。何百軒もの筑豊のお寺を中心に三〇年間以上にわたって調査・研究をされてきた金光烈さん、大牟田の三井三池炭鉱の社員でありながら自社の朝鮮人・中国人・連合国捕虜の被害の実態を調査・研究されてきた武松輝男さんら先達と共に福岡県ネットワークの活動を行っていきます。その過程と結果が日韓の歴史認識の共有を広げていく機会になることを願っています。

李順徳さんと姜日出さん（矢嶋宰さん提供）
（10月5日ソウルでの水曜デモにて）

七月二十三日のユン・ミヒャンさんの講演会は参加人数九三人で、山口、北九州、飯塚等、遠いところからも来ていただいて、いい集会となり感謝しています。参加人数と場所のキャパがぴったりで会場を貸してくださった福岡バプテスト教会に感謝です。

ユンさんの講演は気迫と活力に満ちていました（講演原稿は関釜裁判のHPに掲載しています）。また、通訳の福留さんがユンさんの気迫を伝えてくれて講演が盛り上がりました。　太田市のヤンムン教会の子どもたちの歌も良かったです。交流会も二十人参加で盛り上がりました。ユンさんの歌が素晴らしかったです。

ユンさんの強烈な連帯のメッセージを受けて、八月行動に向けて意気が上がりました。十日のデモの様子は六ページの安倍さんの報告を読んでください。

皆様に協力していただいた国際署名は五十五万四千六百二十二筆となり、八月十二日に内閣府に届けられました。その夜の報告集会は四人のハルモニを中心に熱気に包まれていたそうです。

福岡では、今後継続して被害者に連なる街頭行動をしていきます。乞う！ご参加を！

十月十三日（木）十八時から
天神旧岩田屋前でスタンディング

「消せない記憶、つなぐ記憶」

日本軍「慰安婦」被害女性を招いて

実行委員　緒方貴穂

昨年十二月、私たちは日本軍「慰安婦」被害女性をお招きして、全国同時証言集会「消せない記憶」を開催しました。韓国の「ナヌムの家」を訪れた若い世代の呼びかけのもと、各地で自発的に実行委員会が作られ、最終的に全国十ヶ所で実現しました（二ヶ所はビデオ上映）。

「戦後」六〇年という節目の年を、私たちは「慰安婦」問題の解決を願って迎えました。しかしながら、何の進展もみることなく、八月十五日が過ぎました。この間、教科書から「慰安婦」記述が消される一方、多くの被害女性が亡くなられました。訃報が届けられるたびに、取り返しのつかない罪を重ねている気持ちになります。被害女性も私たちも、未だに戦争から解放されていないと感じます。

総選挙の結果、被害女性が求め続けている日本政府による謝罪と賠償は、一層困難なものとなりました。しかし、私たちの意志と願いに変わりはありません。

今年も証言集会を開催します。

十月二十二日、「旧日本軍性奴隷問題の解決を求める全国同時企画」を共通タイトルとして、全国九ヶ所（東京・神奈川・三重・京都・大阪・広島・高知・福岡・沖縄）で開催する予定です（開催日の異なる地域もあります）。

福岡では「消せない記憶、つなぐ記憶」と題して、韓国の黄錦周（ファン・クムジュ）さんをお招きします。今年五月にソウルでお会いしたとき、黄錦周さんはお身体の傷を見せながら、必死に思いを伝えようとされました。特に、韓国と日本の子どもたちのことを心配しておられました。今回、私たちの招請を快く引き受けて下さいましたが、ご高齢となられた被害女性にとって来日して証言を行なうことは、肉体的にも精神的にも非常に辛いことです。なぜ、心身の痛みを押してまでも伝えようとされるのか。その意味を多くの人に考えていただきたいです。

証言集会に先立ち、「ナヌムの家」絵画写真巡回展と台湾のアマの写真展も開催します（「アマ（阿媽）」とは台湾でおばあさんの意味）。絵画の多くは、既に他界された姜徳景（カン・ドッキョン）さん、金順徳（キム・スンドク）さんによるものです。絵に込められたハルモニの思いを感じ取っていただけたら幸いです。ハルモニたちに寄り添ってこられた写真家の矢嶋宰さん、台湾の写真家、黄子明さん、沈君帆さんの貴重な作品も展示します。

これらの企画を通じて、平和への思いをつないでいけたらと願っています。

詳細は、次のHPをご参照下さい。

http://www.geocities.jp/harumoni2005/

広島　10・22旧日本軍性奴隷問題の解決を求める全国同時企画　「未来を拓くことば」

日　時：10／22（土）開場14：00／開演14：30～
場　所：広島大学東広島キャンパス中央図書館
　　ライブラリーホール（仮）
証言者：キム・オクソンさん
講　演：都築寿美枝さん（中学保健体育教諭）
参加費：前売300円／当日500円
主　催：10・22証言集会実行委員会（代表上野幹浩）

カンパ宛先：郵便口座　01390－9－83091
名称　証言集会実行委員会

戦時である今、証言を聞く事

平尾　弘子

戦後六十年を経ても、個人の記憶のなかに深く沈潜し、たぐり寄せられることのないまま埋没していく戦争の光景が、無数に遺されてある。私は、二年余りの間、このような記憶の光景を拾い上げるべく、『関釜裁判を支援する会』の事務局のメンバーと共に幾多の人々を訪ね歩いてきた。それらの証言は、文章として残すことができたものもあるし、記憶や状況が曖昧なまま、記録に留めることができない場合も多々あった。

その行程の中で、高齢の方が語る戦争の証言の常として、過去と現在が交錯し、時の感覚が入り乱れるため、いったい自分がいつの時代にいるのか、一瞬、不明になることがある。惑乱は、ひとり、話者のものではなく、聞き手である者までもその時間に引き込まれていく。証言をしてくれた方の多くが、昨日の記憶より六十年前の戦争の記憶の方が鮮明に残っていると一様に語っておられた。証言者の語る空間には、まさに「昨日の戦争の世界」が現出していく。

国家が巧妙に光を当てようとする歴史の背面には、表裏をなすように人の眼がとらえ、眼底に焼きつけられていながら、長い年月を経てもなお、語ろうとして語ることのできなかった光景が遺されている。

戦争の記憶の聞き書きを行なってきた二年間、同時進行で日本は、戦後初めて戦闘地であるイラクに自国の軍隊を派兵する道を進んでいった。個人の記憶のなかの不可視の戦争の光景を訪ね歩くことは、平穏な日常が連なりながらも軍隊が戦地に派兵されているという戦時である今を沈思することになる。

国家は、ごく一部の例外を除き、概ね個人の慟哭や哀しみを無に帰したり、変容させる方向に動いていく。今の日本は、マスメディアも動員し、極めて巧妙な手口でそれが、いつの時代にも増して顕著に進行している。

記憶の揺り戻し、そして、証言者と向きあい、話を聞き、その表情や言葉にならない沈黙を自らの眼や耳で記憶に留めることは、今こそ求められているのではないだろうか。

■福岡　　全国同時企画～日本軍「慰安婦」被害女性を招いて～
「消せない記憶、つなぐ記憶」
日　時：10／22（土）開場13：30／開始14：00～
場　所：西南学院大学2号棟203号室（地下鉄「西新」駅下車、徒歩5分）
証言者：黄錦周（ファン・クムジュ）さん
講演：李熙子（イ・ヒジャ）さん　（太平洋戦争被害者補償推進協議会共同代表）
主催　全国同時証言集会・福岡実行委員会

「ナヌムの家」絵画・写真巡回展、台湾のアマの写真展
日　時：10／20日（木）9：00～19：00、
　　10／21日（金）9：00～18：00（予定）
場　所：西南学院大学2号棟1階学生ホール
※証言集会・絵画写真展ともに入場無料です。

カンパ宛先：郵便口座　01760-8-40636　／　名義　全国同時証言集会

ハルモニ達と共に羽ばたいた夏の日

安倍妙子

「八月十日にハルモニ達は蝶になる！　皆さんも蝶になって！」

韓国挺身隊問題対策協議会（挺対協）の事務総長ユン・ミヒャンさんは七月二三日の福岡での講演会で私たちにそんなメッセージをくれました。

戦後六〇周年という節目を迎えた今年八月十日に行なわれる「慰安婦」問題の早期解決を訴える「世界同時水曜デモ」へ向けて、連帯のメッセージを届ける為に福岡へ足を運んでいただいたのでした。東洋思想では一時代の一区切りになる六〇年が一つの単位になって、新しい年の到来を表します。この戦後六〇年という節目に向かってハルモニ達も脱皮して蝶になるという。私達もこれまでの古い殻を脱ぎ去って平穏でないものに声をかけ、穏やかな日常がハルモニ達やアジアの戦争被害の人たちの頭上に補償される事を願って行動しよう！八月十日の「世界連帯デモ」の日はみんなで楽しみながら連帯しよう！と色々と考案した結果、「目立つ」ことを最優先にして、数人が黄色いシャツで頭には触角をイメージしたかつらを着けるいささか派手な蝶々ファッションの実践となりました。前日の九日には「戦後六〇年世界同時デモ」のメイン横断幕を作りました。ピンクの色合いも美しい「六〇年」の文字色には「被害者達の青春を返して」という思いが込められています。

一八時からの集会は主催者各団体の挨拶、ハルモニ達のメッセージ披露、東京からのメッセージやこの日に参加できなかった方々のメッセージも読み上げ、最後に共同声明を読み上げて、一八時三〇分に会場の警固公園を出発しました。「私と同じ年代のハルモニ達に想いを馳せて」と、Oさんがこの日チマ・チョゴリを着てハルモニになりかわってデモの先頭・中央に立って歩かれました。参加者約四〇名程のデモ隊がきりっと引き締まり、素晴らしいスタートになりました。警固公園から表通りに出て、私たちが何故今日この時に歩いているのかを訴えながら、皆さんも一緒に歩きましょうと呼びかけて、ゆっくりゆっくりのペースを保ちながら歩き続けました。時々「We shall overcome」の替え歌を「ハルモニ達に勝利を」という気持ちを込めながら歌って歩きました。そして列の最後から道行く人にチラシを配りました。約五〇分程歩いたでしょうか、道行く人には色々な反応があって知らぬ振りして通り過ぎる人もあればバチッと視線の合う人もいて、その瞬間にはしっかりメッセージを目で送りました。会釈する人、立ち止まって文字を読む人もいました。段々薄暗くなってから公園に戻り、そこで再びミニ集会をやりました。最後に「ハルモニ達に勝利を」の歌をもう一度歌って福岡の世界同時デモは静かな感動と共に終りました。闘っているハルモニ達と一緒に歩き、思いを重ねる事が出来た素晴らしい連帯！「世界同時デモ」の熱き一日でした。

世界同時デモから過ぎること一月あまり、あれから少しずつ私の脳裏に広がりつつある事があります。

それは、この福岡でもソウルのハルモニ達の「水曜デモ」に連帯して何かやれる事はないだろうかということです。この夏、戦後六〇周年という節目の行事を様々な場所で体験して、やはり共感し続ける事の必要性を深く感じました。ハルモニ達への共感…それは、少しでも、「訴え続ける人たち」になること。想いが他人にさらせるようになること。行動する人たちを増やしていくこと。

私たちが日々息をし続けるようにこの想いを伝え続けていく事が、実は一番の近道だということを感じはじめています。そうしてその感覚は既に支援する仲間の皆さんたちの中に浸透しつつあります。それをとても強く感じた先日の真相究明の会議でした。めげずにやるというのではなく、めげてもやりましょう。また立ち上がりましょう。また歩きましょう。

韓国訪問記

花房恵美子

八月二十一日に、前日からの雨の影響で急に涼しくなった福岡から田村奈央さんと花房俊雄と計三人で韓国・釜山へ行き、二十五日まで光州・ソウルと韓国訪問してきました。釜山で坂本知壽子さん（ソウルで留学中。通訳として手伝ってもらっている）と合流し、彼女には三日間付き合って頂いて大変楽しくて、助かりました。

釜山では九二年に関釜裁判が始まってから一年余り原告たちに通訳として付き添ってきてもらった朴ヘレナさんのお宅に泊めていただきました。言語ばかりでなく料理の達人でもある彼女の手料理（豆乳の冷麦、じゃがいものチヂミ、干しダラのお汁、古漬けキムチ等々）を楽しんで食べました。彼女はその数週間前転んでくるぶしにひびが入り、ギブスをはめていて、再会した時驚愕。心配させないために知らせなかったそうです。

空港から一緒にヘレナさんの家に行った朴SU（パク・SU）さんと柳T（ユ・T）さんとは一緒に泊まるつもりにしていましたが、怒涛のようなヘレナさんの語り口と、ホスト役の彼女が歩くのもやっとなので遠慮して夕方お帰りになり、ゆっくり話せなくて残念でした。

朴SUさんは二〇〇三年秋に富山と福岡に来られた時と比べて痩せておられました。今年4月に胃の手術（胃癌の初期だったそうです）をして、ご本人によれば「これでも食べられるようになってだいぶ良くなった」とのことです。家は病院から遠いので、現在は「老人の憩いの家」の一室を無料で借りて一人で住んで、大学病院の精神科と神経科に通院しているそうで、内科は薬だけもらっているとのことでした。直前に彼女から来た手紙を紹介します（七月七日付け。原文のままです）。

「お元気ですね。ほんとうにありがとうございます。ようやく命は助けました。皆様たちに申しわけありませんでした。こんどは死ぬと思って居たんです。晩に病院に行ってリンケルを何かいも。毎日。人も目に見えなくなってみんなが死ぬといったのに。病院の近いところにへやを一人で出て来て　命はようやく助けました。

今　ごはんもたべるし　話も　できるし　みんなが見て　わたしのかほじゃないといいましたが、今は多くよくなっています。子供たちにもすまないし皆様たちにもすまない話はどうしたらいいかわからなくすまないです。

朴SOさんからでんわがかけてきたのに　なんの話かわかりません。

字がよくないのできっとあうのをたのしみにまっています。大学病院にあした行きます。では皆様たちに安否伝えて下さい。」

柳Tさんは相変わらずお元気ですが、同じ姿勢を続ける事が辛いらしく、少しず

左から筆者、朴ヘレナさん、柳Tさん、朴SUさん、花房俊雄さん、田村奈央さん

（8月21日釜山・朴ヘレナさんの家で）

つ歩いている方がいいそうです。背中のゆがみも前よりはひどくなっているような気がしましたし、痩せられました。「ジュンイチはどうしている！」。（三輪君のことです）いつも感じるのですが、Ｔさんの傍にいると、さわやかな風が吹き抜けるようで、楽しく優しくなれる気がします。

二十二日は高速バスで光州へ。タクシーで太平洋戦争犠牲者光州遺族会の会長・李金珠（イ・クムジュ）さんのお宅へ。

木浦の成Ｓ（ソン・Ｓ）さんにはこちらの時間の都合で光州に来てもらったのですが、体の具合が悪いらしく殆ど食欲がなく、お腹が痛いとずっとお腹をさすっておられ、申し訳なく思いました。彼女の裁判にかける思いは強く、本人尋問できないことを悔しがり、「私が行かないでどうするのか」と、日本に行って話したいと訴えておられました。

梁錦徳（ヤン・クムドク）さんは次男が癌の手術（胆道と直腸）をして、五十万円の借金をしたそうで、疲れがどっと出たそうです。彼女のパワフルさは相変わらずで、度重なる苦難に立ち向かっておられました。名古屋・三菱訴訟の地裁判決での敗訴の話になると皆悔しくて盛りあがりました。李金珠さんは結審の時の錦徳さんの韓国式「最敬礼」が不満で、「年下の裁判官にあんな事をして私は気持ちが良くなかった」と批判されていました。錦徳さんは裁判官の心が動くようにと思って跪いた、と説明しておられました。

今回は福岡で取り組んでいる壱岐朝鮮人遺骨問題（終戦直後、朝鮮への帰国途中台風に会い壱岐で遭難。遺骨が壱岐と埼玉県の金乗院にある、乗船者の出身地は全羅南北道、慶尚南道）について、遭難の真相を知るべく地元のマスコミを通じて三十三人と言われている生存者の名乗り出を促す目的がありました。二十三日は金珠さんのご尽力でソウル行きＫＴＸ乗車時間ぎりぎりまで約三時間記者会見しました。オーマイニュースほか五社、七人の記者が熱心に聞いてくれました。翌日にはオーマイニュースをみたＫＢＳのディレクターから連絡があり、二十五日に取材となりました。

ソウルに着いて羅Ｈ（ナ・Ｈ）さん金Ｊ（キム・Ｊ）さん支援者の姜済淑（カンジェスク）さんと合流しました。朴ＳＯ（パク・ＳＯ）さんはここまでは出て来られなくなるほど、認知症が進んでおられました。

羅Ｈさんはソウル近郊の農家で、果物や野菜やバラの花などをつくっていて、経済的には苦しくないそうですが、家族との関係が厳しく、夫に今も暴力をふるわれていて、彼女に電話があってもあったことを知らせてもらえないそうです。

彼女の夢は一人で暮らす事なのです。彼女の優しさは言葉にできないほどで、彼女のうちに秘めた情熱や能力が挺身隊に行った事で開花できていないことを残念に思うと同時に、不二越の裁判の過程で封印が解けたら素晴らしいなと思っています。

金Ｊさんは膝が悪いそうで、階段の上り下りはつらそうでした。

「日本は腰を低くする姿勢を見せればいいものを。不二越もお茶の一杯もいれてくれればいいものを・・」「自分が死んだあとでもらっても何にもならない」と、日本政府と不二越の態度が彼女たち被害者の心を癒すようなことをしていないことに怒っておられました。彼女の本人尋問の時には名古屋三菱の原告であるお姉さんも富山に来て傍聴したいそうです。

二十四日は坂本さんが合宿があるので三人で朴頭理（パク・トゥリ）さんが入院して

いるアニャン・メトロ病院へお見舞いに行きました。識別してもらえなかった昨年と違い、大きな口を開けて驚きの声「アウ！」「アイゴー！」。力強く手を握って抱き寄せてくれました。看護婦さんたちがいっぱい話されるのですが、通訳がいないので、言われている事はだいたい分かっても、会話が成立しないので、しばらく頭理ハルモニの足をマッサージして、明日また来ると言って水曜デモの場所に向かいました。病院に行くのに地下鉄を間違えて乗ったりして時間がどんどん後へと押していて、水曜デモの会場へも解散間際にやっと着いたという有様でした。黄錦周（ファン・クムジュ）さんと再会を喜び合い、十月の同時証言集会へ招待したいと再度要請しました。「福留さんから聞いているよ。行くよ」と元気な返事をもらいました。

通訳の大学院生イ・ジウンさんと合流し、食堂でみんなと一緒にお昼ご飯を食べてから朴SOさんのお宅へ行きました。この時点でナヌムの家に行く事は諦めました。

朴SOさんは、「私たちの裁判は今どうなっているのか。」と毎日のように日本に電話をかけてこられますが、電話をしたことを忘れてしまわれるようです。

彼女の興味は裁判と病気と、言い切ってもいいくらいで、裁判にかける思いの切実さに胸を打たれます。連れ合いさんは私たちの訪問が楽しそうで、ご自分の事をずいぶん話され、SOさんの被害に対する補償のあり方についても熱心に聞かれ、さらに「(SOさんが)ボケていることを認めないから困る」と言っておられました。

翌二十五日は李順徳（イ・スンドク）さんに会いたかったのですが、旅行中で会えなくて、イ・ジウンさんに付きそってもらってもう一度朴頭理さんのところへ。

前日もそうでしたが、私たちを迎える頭理さんの力強さには驚きました。朝鮮人参茶をストローでぐいぐいと飲まれるのです。

看護婦さんたちから頭理さんが入院患者のボーイフレンド(イケメンハラボジでした)に「貢いでいる」こと、日本人の見舞い客からお金を「まきあげて」、貯めては彼に渡していると聞いて笑っていたら、頭理さんから怒られてしまい、また皆で大笑いしました。寝たきりの頭理ハルモニが周りの人たちに与えるパワーの凄さに脱帽です。ハルモニは今も青春しているので、自分の顔を鏡で見るのは嫌いだそうで、手で払われるそうです。とても楽しいお見舞いでした。歩けるようになってナヌムの家に帰って長生きしてほしいと切に思います。

花房俊雄は壱岐問題でKBSの本社で取材を受け、帰国に間に合う時間ぎりぎりに病院に着き、慌ただしく頭理さんとお別れのあいさつ。「立たせろ！」と頭理さんが立って私たちを見送りたかったのと、テレビチームが来たので病室は騒々しくなってしまい、他の患者さんやスタッフのかたに申し訳ないことをしました。

今回は李順徳さんに会えなかったことと、ナヌムの家に行けなかった事が残念でした。

（ナヌムの家の矢嶋さんからの連絡で、順徳さんはウリチブに入居され、十月五日の水曜デモには元気で出てきておられたそうです。）

韓国社会が居心地良く感じ、ずっと何故なのか考えていましたが、韓国映画「大統領の理髪師」を見て唸り、納得しました。韓国社会が風通しがよくなっていること、それを民主主義の成熟と言うのかもしれませんが、はるかに「大人社会」になっている事を感じ、羨望を禁じ得ませんでした。

2005年中学校教科書採択の夏が終わって

教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま
菊間　みどり

今年は「日韓友情年二〇〇五」、日本と韓国が国交正常化してちょうど四〇年にあたり、日韓での交流事業がすすめられているらしい。しかしどうだろうか、この記念すべき年に「竹島（独島）」問題や小泉首相の靖国参拝、そして「新しい歴史教科書をつくる会」（以下「つくる会」）教科書の検定合格などなど、友情にヒビの入るようなことが立て続けに起こった。マスコミは「反日」報道を繰り返すばかり。そのような中、私たちは「つくる会」教科書不採択を求める運動を展開してきた。

今年は来年度使用の中学校教科書採択の年であった。私たち「教科書問題を考える市民ネットワーク」の呼びかけで、「二〇〇五年教科書採択問題・広島県民ネットワーク」を立ち上げた。今までそれぞれの地域でやっていた運動を点から線へ、そして面へとひろげていったのだ。各地の運動と連携し、交流会、学習会を開催。限られた時間の中で様々な取り組みを行った。

共同アピールを作成し、各界の著名人から呼びかけ人を募り、広範な賛同をひろげることができた。西日本各地の運動とも連携し「教科書展」を開催。多くの市民に教科書問題に目を向けてもらえるいい機会になった。そして、「六・二五ともにつくろう！アジアの未来～子どもと教科書」というテーマで日韓シンポジウムを開催。このシンポジウムに合わせて、韓国からの市民友好交流団の訪問があり、県内の自治体を表敬訪問。訪問団の中には一人の元日本軍「慰安婦」のハルモニがいた。チマチョゴリに身を包んだ彼女は「私（の存在そのもの）が歴史です」「子どもたちに本当のことを伝えてください」と訴えた。

県民ネットを立ち上げようとしていた矢先の今年二月、広島県教育委員会が「つくる会」教科書の宣伝資料を教科書採択に関わる担当者に配布していたことが明らかになった。露骨に「つくる会」を特別扱いしていたのだ。私たちは住民監査請求を提出し、県教委の「つくる会」を特別扱いしたことに対する監査請求や採択の情報請求など、不正な採択や行政の介入を許さない取り組みをした。

「七・一六あぶない教科書はいらない！広島県民集会」を開催し、これが県民ネット最後の大きな取り組みとなった。イデオロギーや政党、立場を超えて、被爆者、在日コリアン、反核・反戦・平和運動家、さまざまな人たちに発言していただいた。そして国内外からたくさんの連帯メッセージが届いた。ミニコンサートでは広島在住の若き在日コリアンたちがサムルノリを披露。パレードでも沖縄のエイサーと共に盛り上げてくれた。道行く人たちに力強くアピールしていた。

今回広島は全地区不採択に終わったものの、決して手放しで喜べる状況ではなかったことを肝に銘じておかなければならないだろう。教育委員五名のうち二人が「つくる会」教科書を推していて、多数決の結果、ぎりぎりのところで不採択になった地区もあった。また教育委員の中に「つくる会」メンバーが送り込まれていて、積極的に「つくる会」教科書を推す発言がなされていた

例もあった。次回の採択で、制度がより改悪されると「つくる会」教科書がより採択されやすい環境になる可能性がある。

もうひとつ手放しで喜べないのは、「つくる会」教科書以外の教科書の動向である。

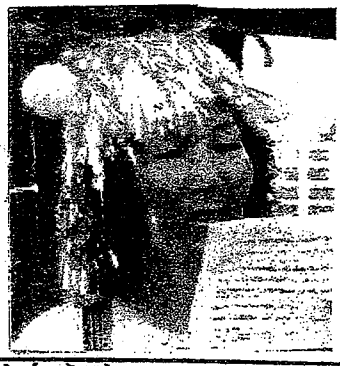
今回、すべての歴史教科書から「慰安婦」の記述が消えてしまった。「強制連行」についても記述に大きな後退が見られ、南京大虐殺、「竹島」（「独島」）、拉致問題の記述などで、他の教科書全体が右寄りに傾いたこともかなり深刻な問題だ。よりよい教科書を子どもたちに手渡すために、私たちに何ができるのだろうか。

韓国の主要メディアは八月三一日付けで「つくる会」の「採択率〇・四%」を一斉に報じ、「今年の教科書採択は、つくる会公言の一〇%採択率をはねのけた市民側の勝利」という論調の評価を出していたとのこと。二〇〇一年よりはるかに深まった日韓連帯や、個々の地域での「勝利」についてはその結果を喜びつつ、あらたに「つくる会」教科書が採択されてしまった地域での状況や、採択結果だけではとらえきれない様々な問題について分析し、今後の対応について考えていかなくてはならない。

二〇〇五年の総括をしながら、四年後の二〇〇九年の闘いの準備に入っている。

※今年一冊の本が日本、中国、韓国の三カ国同時に出版された。その名も『未来をひらく歴史』（日本版：高文研）。歴史認識の共有をめざし三カ国が共同で作った画期的な歴史本だ。一口に歴史認識を共有すると言ってもそう容易いことではない。しかし、このような本の登場は暗闇の中の光のように思える。

（関釜裁判を支える広島連絡会）



蝶々ファッションで替え歌をリードする安倍さん（本文六頁）（八月十日警固公園で）

<学習会のお知らせ>

戦後60年、これからどうする！

「慰安婦」問題　国連ロビイング13年とその成果をふまえて

前田朗さんを囲んで学習会

日時：１１月２５日（金）午後６時３０分～８時３０分

場所：ＮＰＯボランティア交流センター（あすみん）セミナールーム

http://www.fnvc.jp/index.html

会場カンパ　３００円

国連での活動を継続され、この夏もジュネーヴで開催された国連人権促進保護小委員会に参加された前田朗さんに日本軍性奴隷制や日本の戦後補償問題に関連する議論の様子を報告してもらうと同時に、この13年を振り返ってお話していただきます。

そして運動の方向性を模索するため、議論していきたいと考えています。

皆様のご参加をお待ちします

主催：早よつくろう！「慰安婦」問題解決法ネット・ふくおか

〈　傍聴をお願いします！　〉

第２次不二越訴訟　第８回口頭弁論
場所：富山地方裁判所
ついに本人尋問！
１１月２日（水）午前１１時～午後５時
原告　羅Ｔさん，李Ｂさん
第９回口頭弁論は１２月２１日（水）
午前１１時～午後５時

１０月１３日（木）１８時から１時間
天神旧岩田屋前でスタンディング
「慰安婦」被害者につながり、それぞれ工夫をこらして早期解決を求めて無言でたちます。水曜デモを韓国で継続しているように、福岡でも月１回は決行。ご参加を！

活動日誌（2005年7～10月）

7月10日	関釜裁判ニュース48号　発送作業　定例会（146回）
13日	中山文科相発言（福岡での）に抗議の記者会見
15日	同時証言集会第１回実行委員会
18日	真相究明ネット結成集会（東京） 福留、花房俊、花房恵　参加
23日	ユン・ミヒャンさん「ハルモニたちの今を聴く」
8月8～10日	韓国真相究明委員会　福岡へ（福留、花房）
9日	世界同時デモ　横断幕，グッズ作成、打合せ
10日	世界同時デモに連帯して福岡でも集会とデモ
11日	同時証言集会第２回実行委員会
21～25日	韓国訪問（花房俊、花房恵、田村）
23日	衆議院議員立候補者アンケート
28日	第１４７回定例会
9月1日	真相究明福岡県ネットワーク準備会
3，4日	全国同時証言集会全国実京都合宿（武石、花房恵参加）
5日	京都の浄土真宗西本願寺派・大谷派両本山への 正確な遺骨調査の申し入れ（花房俊参加）
3～5日	不二越訴訟本人尋問打合せ（韓国にて弁護団、北陸連絡会）
7日	同時証言集会第３回実行委員会
21日	立法ネット会議
22日	同時証言集会第４回実行委員会
24日	強制動員真相究明福岡県ネットワーク結成会議
10月1日	真相究明ネットワークの全国事務局会議（神戸） （福留、花房俊参加）
2日	ニュース49号編集作業

明太がつぶやく
めんたい

韓国の女性作家申京淑（シン・ギョンスク）さんの小説「離れ部屋」（集英社刊）を読みました。私と同世代の1963年生まれ。工場で働きながら夜学で学び、作家を夢みる少女の青春が朴正熙大統領の暗殺や光州事件など、激動の時代を背景にしてみずみずしく描かれています。最近読んだ小説でいちばん胸を打たれた作品。主人公のひたむきな生き方が心を揺さぶります（編集長Ｙ）

★関釜裁判ニュース　49号★
2005年10月9日発行
編集作業人　井上由美　花房恵美子
発行
戦後責任を問う　関釜裁判を支援する会
代表　松岡澄子　入江靖弘

E-mail　hanafusa@df6.so-net.ne.jp
年会費　3,000円
郵便振替01740－0－47678
口座名　関釜裁判を支援する会

WEB版関釜裁判を支援する会
ホームページアドレス
http://homepage2.nifty.com/kanpu/

関釜裁判を支える広島連絡会
土井桂子

関釜裁判を支える福山連絡会
市民運動交流センターふくやま

関釜裁判を支援する県北連絡会
福政康夫

第二次不二越訴訟支援　北陸連絡会

ホームページ
http://www.fitweb.or.jp/~sksr930